

# 佐渡生きものの語り 作品集 2012



## 「生きものの語り」について

平成20年、一度は姿を消した朱鷺が佐渡の空に舞い戻ってきました。これを機に佐渡では、朱鷺の餌場である田んぼを生きものでいっぱいしよう、農薬や化学肥料を極力減らし、生きものたちの命を大切にす環境との共生を目指す「生きものを育む農法」を取り入れました。私たちの最初の目標は「朱鷺の餌」を確保することでしたが、田んぼの生きものたちと生きもの調査などを通して身近に接していくうちに、田んぼには実に様々な生きものたちが命の営みを繰り返しながら懸命に生きている姿を目の当たりにします。そしてこの生きものたちの力を借りる事によって、より豊かな自然環境の創造やお米づくりができることを教えてもらったのです。

佐渡市では「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」を全島に広げ、より安心して美味しく食べてもらえる佐渡米づくりに奮闘しています。毎年6月第2週と8月第1週の日曜日は「全島一斉生きもの調査の日」として農家はもちろんのこと、地域の子供たちや消費者も一緒になって生きものたちと向き合おうとしています。「生きもの語り」とはそんな生きものたちへの「まなざし」を文章や川柳、イラストなどで表現したものです。

### 生きもの語り作品について

今年川柳・短歌部門に133作品、エッセイ部門に4作品、イラスト部門に7作品の応募がありました。その中から川柳・短歌部門はグランプリ1作品、準グランプリ2作品、佳作12作品、エッセイとイラスト部門はそれぞれグランプリ1作品が選ばれました。作品に込められた思いを感じていただければ幸いです。どうぞごゆっくりご覧ください。

### 川柳・短歌部門 グランプリ作品

生きものは 育てる腕と 思いやり

山田 秀夫 (東京都)



《選考委員から》

生きものを育む農法は生きものを見る目と  
思いやりがなければできませんね

草刈機 止めて見上げる トキの群れ

佐々木 勲 (佐渡市)



《選考委員から》 草刈りで汗をかいたひとときが目に浮かびます

孫と佐渡 生き物調べ 楽しんで

安全な米 食べる幸せ

ペンネーム・コウ (東京都)



《選考委員から》

お孫さんと一緒に食べるお米は  
とてもおいしそうですね

川柳・短歌部門 佳作

ときのひな 田んぼのなえと せいくらへ

内田 桜子(佐渡市)

一粒に トキへの願い 込めた米

伊藤 拓摩(東京農業大学)

生きものと 一緒につくる 郷づくり

駒形 憲昭(佐渡市)

なか干しの 田んぼに足跡 水たまり

どじようが入って こんにちは

大澤 清二(佐渡市)

新緑に 朱鷺の子飛び立つ 佐渡ヶ島

美味しいお米と 生き物育つ

猪股 直生(東京農業大学)

1ミリの 虫に名のある 喜びかな

前田 秋晴(佐渡市)

エサを食む トキのつがいに 笑みこぼれ

上岡 美保(東京農業大学)

島の田で バッタ追いかけて トンボ舞う

空見上げれば 朱鷺色の空

ペンネーム・トッキッキー(佐渡市)

トキだけが 佐渡の魅力じゃ ないんだよ

一度感じに 佐渡へこいつちや

小田 幸(佐渡市)

知らぬ間に 血を吸うヒルに 吸い付かれ

気が着けばアラ 太くなりけり

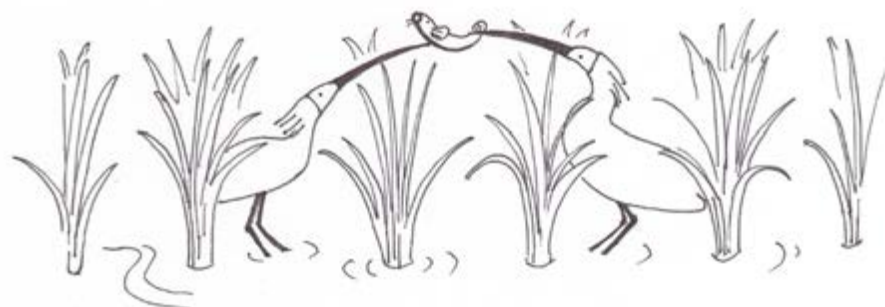
ペンネーム・トキ(東京都)

黄金の 稲穂の波や 朱鷺育つ

大蔵 靖子(佐渡市)

稲刈りが 済みし田んぼに 雁来る

ペンネーム・茶爺(佐渡市)





## エッセイ部門 グランプリ作品

「カエルさんがね」

暑い暑い毎日、  
子供たちにとっては毎日がプール日和で良いのだけれど、  
私にとっては、毎日が洗濯日和ってところかしら、  
そんな今年の夏

家の前の田んぼの稲も、心なしか元気がなさそう  
水もカラカラで、こないだまでいたドジョウやカエルは何処に？

「ママー、」子供が呼ぶ声にも

暑いせいか、応えるのが少し億劫に「・・・」

「雨だよー」の声にはつとして、外に飛び出し洗濯物を取り込む

「ハアハア」夏は洗濯物がすぐ乾くぐらいしか楽しみは無かったのに  
そんな気持ちで、どっと疲れていると

「ママー、」と呼ばれて、はつとして、再び家の外に飛び出す

「カエルさんが元気になったよ、さっきまで江のところで休んでたけど、  
雨が降ってきたらぴよんぴよん跳ねて、私のところに飛んできたの、」

雨で髪が濡れた娘の手には、

雨で濡れたカエルがのって私を見てる

「うっ、」と一瞬ひるんだけれど

娘と一緒に江の中を覗き込むと、ドジョウやカエル  
それと小さな生きものがいっぱい

田んぼの中は水が少ないからみんな江に集まってくるんだね

そういえばうちの娘達も、

よく江に集まっているわ・・・

ペンネーム・てるみ



イラスト部門 グランプリ作品



生駒 昂大

(新潟大学付属新潟小学校)

《選考委員から》  
ハサミを振り上げ威嚇しているようすが  
うまく描かれています

イラスト部門

(新潟大学付属新潟小学校)

い初のほか  
かじにやられて  
きれいな  
まじの人ま  
かじにやられる



佐野 海斗

菓を作り  
アメリカザリガニ  
じやまする



大西 周

いろいろな  
佐渡の生きもの  
きれいだな。

竹石 紗絵



加藤 礼夢



ゼニタナゴ  
6~10cm

広川 武



市川 凌





白い帽子を脱ぎ捨てて より濃い緑を集め出し

まばゆい光を走らせて トキの里に春が来た

本間 国紀

桜咲く ヒトもカエルも 花より仕事

ペンネーム・茶爺

トキ巣立った よかったやった 飛び跳ねた

山田 秀夫

朱鷺の子 『旅たちのとき』 また飲もう

山田 秀夫

トキの 「ゆめ」「みらい」「へつなぐ」「きぼう」あり

山田 秀夫

あたたかな 水面にただよう ヤゴ・カエルの子  
生きものに 優しさあふれる トキ守る田んぼ

上岡 美保

ときつがい 初めて会いし 佐渡の雨

末武 正則

ヒナ誕生 佐渡の自然が 夢運ぶ

岩渕 慎矢

長年の 苦勞が報われ トキにひな

川村 僚

田んぼ道 水辺あらわる 朱鷺のペア

上地 来実



風が吹き ゆれるカメムシ 爽やかだ ペンネーム・ぎんぼ

親子して 緑のじゅうたん かくれんぼ 内田 大和

青い空 緑の自然に囲まれて はばたいてゆけ 絆の復元者 佐藤 瑞穂

朱鷺巣立ち 佐渡の文化を 伝えゆく 佐々木 勲



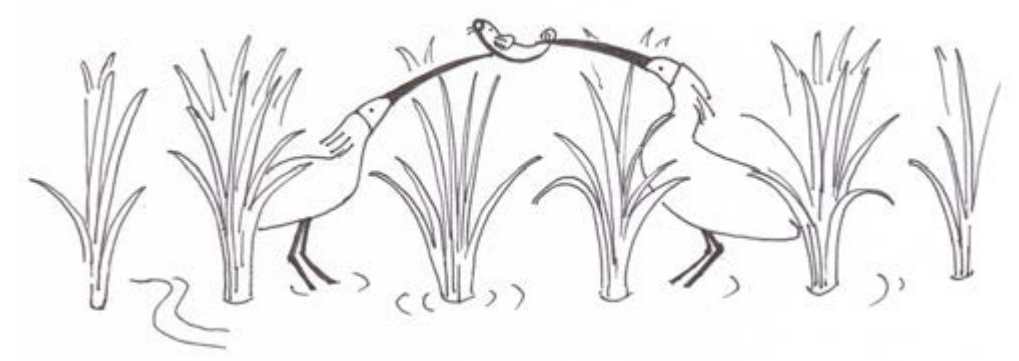
洋々と カンゾウ香り トキと舞う 本間 国紀

はんなりと 黄色にそまる 亀二つ 本間 国紀

カンゾウの お花畑で あはははは 今関 優史

肩合わせ キリコかついで わっしょいと 山郷 一龍

さあ踊ろう みんな友達 佐渡おけさ 松原 実





トキの雛 ドジョウ探して 明日生きる 山田 秀夫

年二回 六と八月 生を診る 山田 秀夫

佐渡の雛 巣立ち確かめ 産みし母 山田 秀夫

大役果たし 後世の旅たち

風さやか トライアスロン 穂波たつ 青木 百合子

ほたるむれ ときめく光 淡き恋 末武 正則

ホタル舞う 夜空に浮かび 稲光る 井上 涼太

川に舞う ホタルノヒカリ 鮮やかに 川原 彰文

滅農薬 いつしか螢 飛ぶ島に 大蔵 靖子

耕運機 (草刈り機) お前が一番 頑張った 植木 寿明

螢火に 照らされあぜ道 歩きつつ

夜風を感じる 初夏の佐渡かな (字余り)

大沢 妙恵



カンゾウが 灯火与える 佐渡島 (字余り)

上地 来実

カンゾウを 見た一瞬が 晴れ模様

上地 来実

無農薬 雑草とりの 大切さ

潮 俊人

青空に トキが飛び交う 佐渡島

稲泉 凛

螢舞う 暗い夜空に 金色に

大間 慶彦

カエル鳴き 耳せん忘れ 里帰り

ペンネーム・腰際園

我はへばる トキは大丈夫か 熱中症

石塚 猛

久々に 虫取りをして 若返る

中村 祐一

もっと名を 長くしてやりたい が虫かな

前田 秋晴

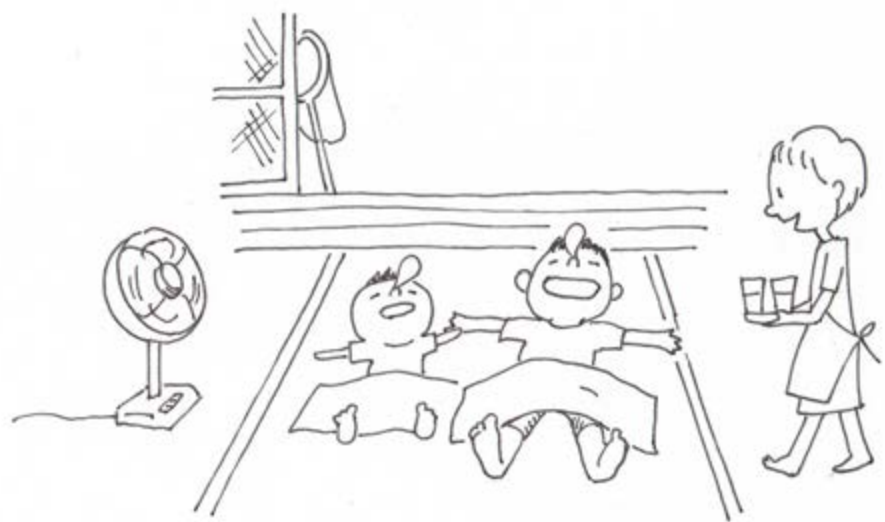
生きものは 田んぼがないと 生きれない

安島 幸太郎

ヒルの徒歩 見とれていたら 貧血に ペンネーム・ぎんぽ

どろだらけ トキもわたしも きもちいい

内田 桜子



どろだらけ トキのごちそう つくろろよ 内田 桜子

みつけたよ いきものちようさ たんぼでね 野崎 春花

背泳ぎも きれいさみなぎる 松藻虫<sup>マツモムシ</sup> 前田 秋晴

田んぼって どうしてこんなに

きれいな の それはトキが いるから

藤田 舜

生きものは 田んぼがないと 生きれない 安島 幸太郎

伸び縮み ヒルの動きを 見てブルル

ペンネーム・じゅんちゃん

おけさがき 花摘む人の 真剣さ  
今年もたくさん 実よなれなれ

岩田 悠乃

「さつき」

(さ) 佐渡島の (さ) 猿八で (き) 筋肉ならして

井上 美香子

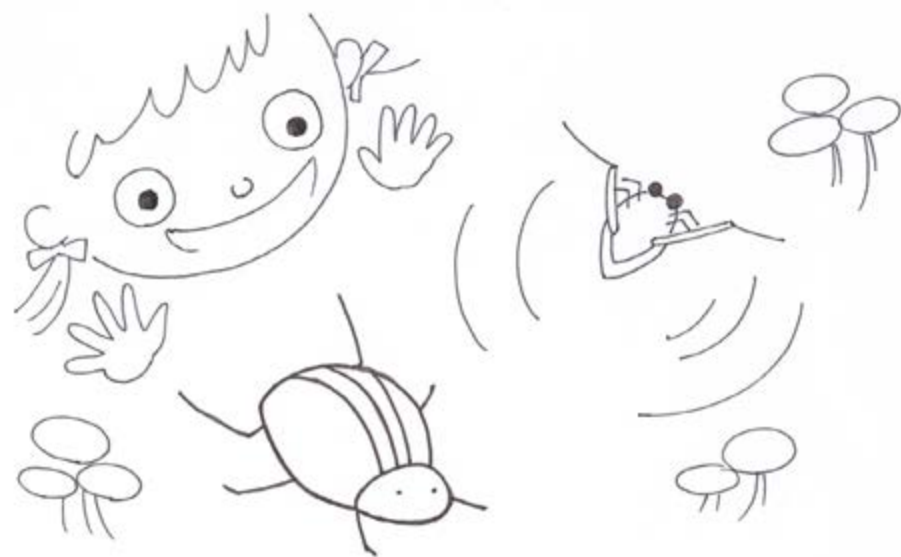
「くにもと」

(く) 草取りがスーパースピード (に) ニコニコ笑顔で

(も) 黙々と働く

(と) トマト大好きようちゃんのお父さん

稲場 絵里子



「イカすぞ！ 佐渡のモリアオガエルくん」

トキばかり目立っているが、何を隠そう、佐渡はモリアオガエルくんがすばらしい、と僕は言いたい。

本土にはアオガエルの仲間がシュレーゲルアオガエルとモリアオガエルの2種類いる。一般的にシュレーゲルは水田の畦の土中に産卵し、目は黄色っぽい。モリアオガエルは水面上に伸ばした木の枝に産卵し、目（虹彩）は赤味を帯びる。佐渡にはシュレーゲルはいないそうだ。モリアオガエルが平場の水田の水際にフツに卵を産んでいる。

僕が佐渡にやってきたばかりのぽかぽか暖かな春のある日、河原田諏訪町の神社前の商店が立ち並ぶアーケードを歩いていた。ふと気づくと、歩道の真ん中にちよこんと鮮やかな緑のカエルが鎮座ましましている。アマガエルかと思ったら眼鏡のツルがない・・・モリアオガエルだ。

僕の職場は国仲平野の一角のやや町外れにあり、職場の裏手には田んぼが広がっている。夏のある日、仕事を終えて職場の駐車場に向かった。暗くなってきた駐車場を明るく照らす外灯の傍に沢山のカエルが餌をあさりに来ていた。アマガエルに混じって図体のでかい鮮やかな緑のカエルは・・・やっぱりモリアオガエルだ（誘蛾灯にも来るんです！）。

初秋のまだまだ暑い陽射しが降り注ぐある日、喉が乾いたので、宿根木の自販機でジュースを買った。もうとうに明るくなった日中にも関わらず、自販機の商品が並んでいる窓に緑のカエルがまだ何匹もくっついていた・・・正にモリアオガエルだった。

モリアオガエルは、新潟県の準絶滅危惧種にリストアップされている。天然記念物に指定している市町村もあり、貴重なカエルのイメージが強い。ところが、佐渡では、モリアオガエルがその辺にフツにいますから驚きだ。しかも結構ふてぶてしい。自動販売機や夜の電灯の明かりにやって来て、アマガエルとエサの奪い合いをやっている。目は赤味を帯びると言いが、佐渡のは何となく黄色い。

佐渡のみなさん、こんなモリアオガエルって佐渡に来るまで見たことはありませんでした。佐渡のモリアオガエルは、そのふてぶてしさも合わせて、もしかすると本土のものどこか違うのかもしれないね？ いや、佐渡の環境の成せる技かも。

がんばれ！ 佐渡のモリアオガエル



藤巻 伸一



「人間なんてラララ」

田植えが終わり、一段落。畦草刈りに精を出す毎日。自走式の最新型草刈りマシンはその威力を最大限に発揮し、きれいに雑草を刈り散らかしていく。「草刈りは気持ちがいい」

ふと気がつくと、行く手には数え切れない変態を終えたばかりのアマガエルたちが逃げまどう姿。ある者は田んぼに飛び込み、ある者はより高い草によじ登り、そしてある者は草刈りマシンの下敷きに……どこかで見た光景だ。

そうだ、映画「アバター」で地球人が資源確保をねらって近代マシンで侵攻し、静かに暮らす原住民たちを襲うあのシーンだ。「自然と人間の共存」をテーマにした大作。感動した。「自然は善で人間は悪か？」「なぜ戦争は無くならない？」……そんな思いが頭をよぎりだした。

草刈りで気持ちがいいのはボクのエゴ？ カエルたちにとってはどう？ 生きものたちと仲良く暮らし、ていくにはどうすれば……地球上に君臨する絶対王者・人間の責任は重いですな。

大井 克巳



秋が来て 稲が刈れるよ ほうさくだ 山郷 一龍

柿の色 選んで食べる 佐渡の味 山田 秀夫

ススキの種 金北山の 山徒えて 青木 百合子

田んぼには あと 생각이 つまっている 猪俣 賢亮

風に揺れ 太陽を浴び 愛を受け おいしく育った 佐渡のトキ米

大沢 妙恵

稲が伸び それと共に 育つ朱鷺（字足らず）

上地 来実

お母さん いつもありがとう お米と笑顔（字余り）

岩田 悠乃

空見上げ トキ色輝く 佐渡島

大阪 晃人

朱鷺が舞い 朱鷺米育つ 佐渡ヶ島

猪股 直生

夕日あび ネグラに向かう トキの群れ

坂田 金正

高速も 停止も自在 トンボ号

ペンネーム・じゅんちゃん

田んぼから 飛び立つ虫に 秋感じ

小田 幸

夜露ぬれ 陽だまりに憩う アキアカネ

ペンネーム・茶爺

トキがくる 自然豊かの 米づくり

内田 大和

トキの舞う 棚田で育つ 古代米

佐々木 勲

みんなでさ おいしくたべよう さどのこめ

みんなでたべれば いきものふえる

平野 航一郎



佐渡の米 みんなで食べれば せが伸びる 花野 弘学

生き物を 助けてやろう お米食べ

みんな食べれば トキも喜ぶ

山田 健二

いねのほが かぜにゆられて きれいかな

さどのトキも かぜにゆられる

笹野 海斗

## 「吉鳥」

放鳥も順調に進みトキも良く見られるようになった佐渡。

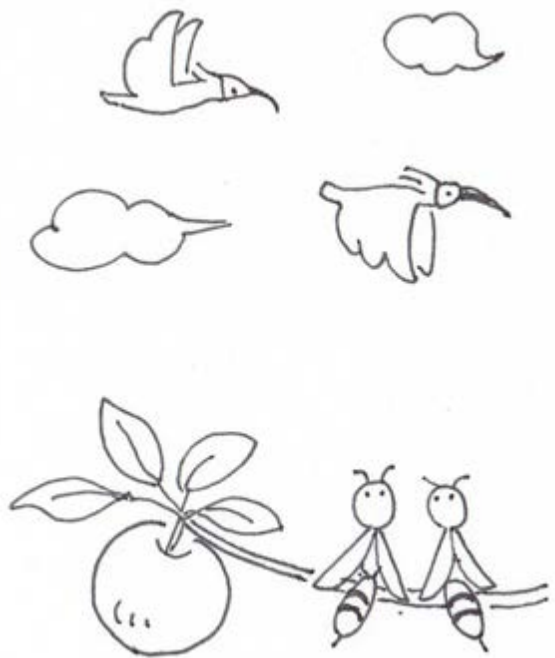
トキを見るとその日はいいことがあるといわれる吉鳥である。朝りんご園の草刈をして、ふと空を見上げると、この付近では珍しくトキ2羽が仲良く飛んでいた。

今日はいいいことがあるぞ！と喜んだ瞬間、右手親指に激痛が走る！

足長バチ2匹が同時に刺しやがった！

何で2匹なんだ！吉鳥なんて嘘だと涙目で  
毒消しのおけさ柿を取りに行き、半分に割り、  
刺し痕にすり込みながら、トキは今日機嫌が  
悪かったのだと思うことにした。

痛てえ〜よ！





初夢や 愛眠るる 佐渡が島

安木沢 修風

海幸は 朱鷺とも暮らす 生き生きと

山田 秀夫

朱鷺の群れ 古里帰る トキを待つ

山田 秀夫

佐渡の酒 お米でつくる うまい酒

榎森 政開



四季愛でて 四季の食材 頂きぬ

大蔵 靖子

給食に 島の食材 頂きぬ

大蔵 靖子

共存す 生きものの島の 四季が好き

大蔵 靖子

街町に 地場産の店 人を呼ぶ

大蔵 靖子

トキが島 砂のぬくもり 波の詩<sup>うた</sup>

本間 国紀





君想う 白い航跡 夢つなぐ

本間 国紀

潟上の 熱くて入れぬ さぎの湯も

トキには入れる こともあるのだ

ペンネーム・ムラカミ

島民と結ぶ航海の波飛沫 見知らぬ人とも我も行きたし

安木沢 修風

佐渡を見に 来てみてほんとに 良いところ 松原 実

朱鷺の島 『世界遺産』を願う トキ 山田 秀夫

天敵に トキをガードして 安らぎを 山田 秀夫

絶景に 佐渡の見どころ トキもあり 山田 秀夫

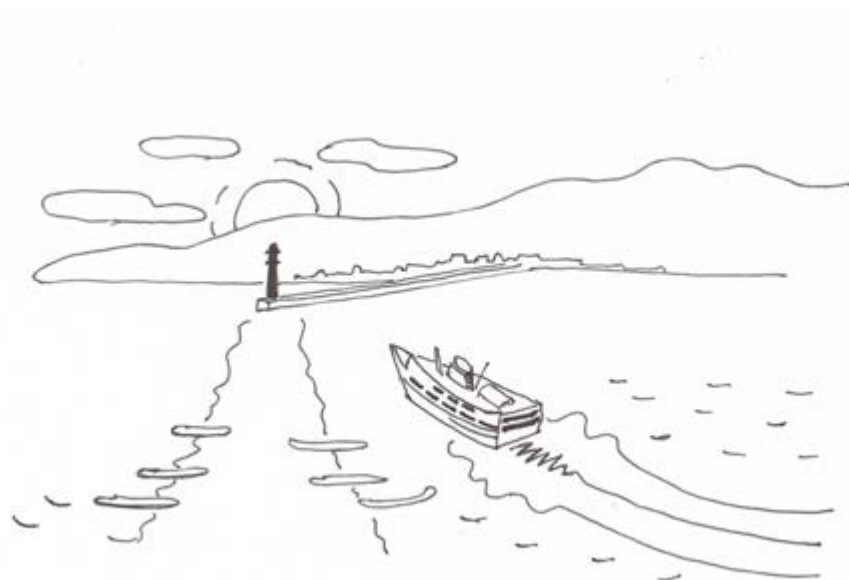
佐渡バスで 北から南 めぐる旅 山田 秀夫

地域知り 詠んで訪ねる 佐渡島 山田 秀夫

いつまでも 話題とどめる 朱鷺の島 山田 秀夫

朱鷺ファン ルールも守る やさしい眼 山田 秀夫

広島に 平和のタスキ つなぐ朱鷺 山田 秀夫



尖閣湾 佐渡は穏やか 美しい

山田 秀夫

朱鷺ファン 時々見たく 尋ねる佐渡

山田 秀夫

トキの島 「おけさ踊り」に 「鼓童」ある 未来へつなぐ 声鳴り止まぬ

山田 秀夫

佐渡島は 自然と文化 歴史ある 『世界遺産』へ 目指す世つぐぐ

山田 秀夫

さりげなく 佐渡を語りて 自慢する 朱鷺の思い出 胸にたたみつ

山田 秀夫

朱鷺さんは 車の音でUターン

青木 百合子

正当な 評価を願う 農の価値

上岡 美保

いつの日か トキよ羽ばたけ 日本中

川村 僚

トキのため 汗水流す いいおとこ

岩瀬 大城

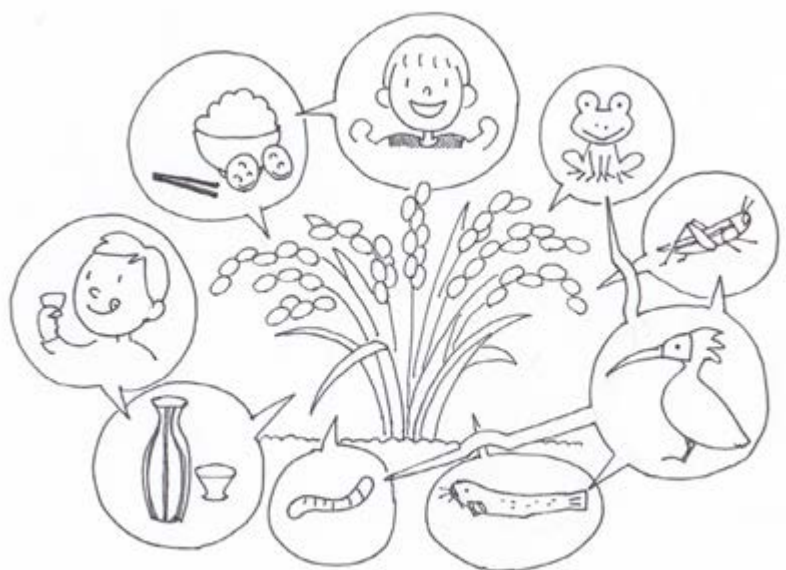
今の佐渡 支えているのは 米農家

今があるのは 義民の名誉

岩瀬 大城

トキを見て 僕の心は ときめいた

稲泉 凜



朱鷺来いと 足をくじいて ビオトープ ペンネーム・腰際園

この島の 未来をひらく 宝もの

白杵 博通

今日の日 心うきうき 初参加

石川 正幸

田んぼは 生きものを そだてる郷

坂田 金正

生きものを 調べる佐渡の 取り組みは

世の中変える 暮らしの生き方

ペンネーム・トキ

空を舞う トキは御前の 姿なり

佐々木 勲

朱鷺の舞 佐渡の形に 合わせゆく

佐々木 勲

トキさんの 親善大使 ありがとう

佐々木 勲

トキといきもの みんなで つなげるいのち 松並 百恵

たのしいな 佐渡のトキはね いいトキだ

だけどテンとか からすにおそわれる

藤田 舜

生きものが とてもふえると トキふえる 安島 幸太郎

たくさんの トキがそだつと うれしいな 本間 詩織



生きものが ふえてふえれば ときふえる

松崎 崇徳

無農薬 命をつなぐ 良い誇り

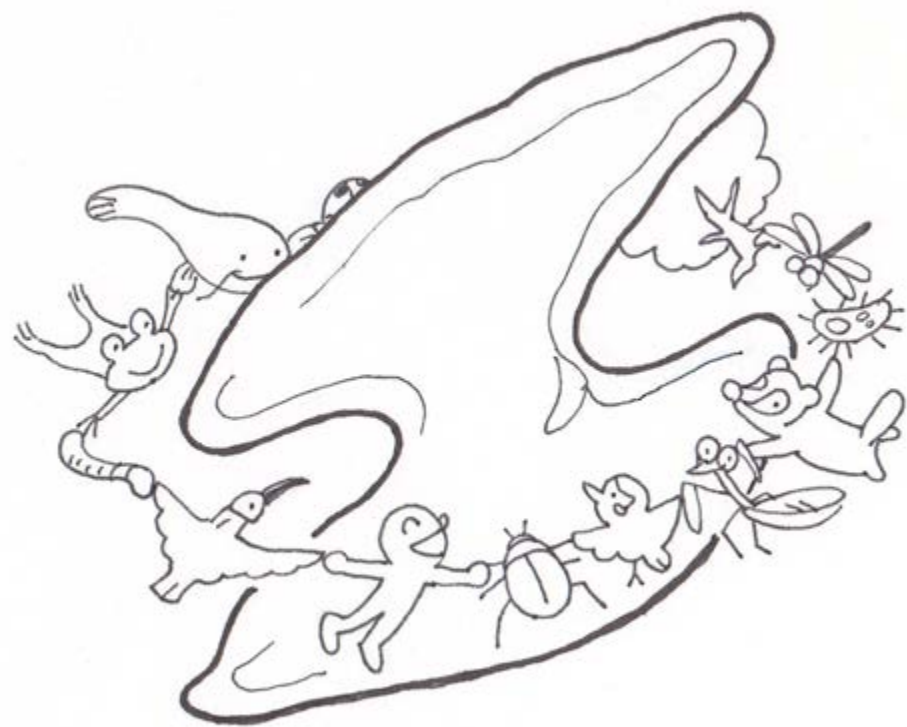
植木 寿明

さかなたち ぐんぐんそだち トキ育つ

新井 太基

いろいろな さどの生きもの きれいだな

竹石 紗絵







## 後記

トキを支える田んぼ

2012年は、36年ぶりに自然界でトキのヒナが誕生した記念すべき年となりました。そのせいか、生きもの語り川柳にはいつもよりトキを読んだものが多くなっています。ヒナが卵から無事にふ化したのもうれしいことですが、生まれた8羽のヒナが全て育ったことで、佐渡の自然の豊かさが証明されたのも喜ばしいことです。

田んぼの作業の合間に見つけた生きもの、日常のふとした時に見つけた生きものたちに思わず心なごむ瞬間があります。気づきの瞬間があります。その気持ちを表現して出上がったのが「佐渡生きもの語り作品集2012」です。これをお読みいただき、いろいろな生きものを育んでいく佐渡の風景を思い浮かべていただければ幸いです。

(社) 佐渡生きもの語り研究所

代表理事 仲川 純子

## 佐渡生きもの語り作品集 2012

発行日 平成25年3月29日 発行  
編集・発行 一般社団法人 佐渡生きもの語り研究所  
発行者 仲川 純子  
〒952-0103  
新潟県佐渡市新穂潟上1101-1 トキ交流会館2階  
TEL/FAX 0259-22-2658 <http://sado-ikimonoken.jp/>  
印刷・製本 新穂印刷  
イラスト 佐渡アートデザインチーム 佐渡絵師